

動物愛護センターにおける犬及びねこの譲渡事業について

～アンケート調査結果より～

長野県動物愛護センター 松沢 淑美

1 はじめに

平成12年4月に開館した当動物愛護センターでは、県民の動物愛護の意識の高揚と動物の適正な飼養管理の普及啓発に寄与することを目的に、毎月2回犬及びねこの譲渡会を開催し、希望者への譲渡を行っている。

今回我々は、当施設より犬及びねこを譲り受けた人を対象に、アンケート調査を実施したのでその結果を報告する。

2 調査方法

(1) 調査対象

平成12年6月から平成13年9月までの間子犬及び子ねこを譲り受けた者、犬譲渡者299名、ねこ譲渡者85名とした。

申し込み条件は、家族全員の同意が得られていること、終生飼養できる環境であること、譲渡前の講習会及び犬については譲渡後の飼い方教室の受講、誓約書の提出を義務付ける等選定基準に適合した者とした。

対象となる子犬、子ねこは避妊去勢、伝染病予防接種、駆虫等健康管理を施し、性格診断を実施した上で譲渡した。

(2) 調査方法

対象者あてアンケート用紙を送付し、回答を郵送してもらった。調査は、平成13年2月(H12.6～H13.1譲り受け者対象)と10月(H13.2～H13.9譲り受け者対象)の2回に分けて実施した。

(3) 調査内容

譲渡後の飼育環境、意識の変化、満足度、講習会・飼い方教室についての感想等(複数回答可)とした。

3 調査結果

回収率は犬80.6%、ねこ82.4%であった。1回目の調査より2回目の調査の方が、犬ねこ共に10%以上回収率が上がった。

犬の登録を済ませたものは83.3%であった。未実施の内訳は譲渡後1ヶ月に満たない人と、各市町村で春の集合注射の際でいいと指導を受けた人であった。

内飼いについては、犬44.7%、ねこ67.5%であった。(図1)ねこでは、1回目の調査で57.7%、2回目では77.3%であった。

当施設から譲り受けて良かったと思うことは、犬ねこ共に1位避妊去勢済、2位健康管理済、3位ある程度しつけができていた(ねこの場合はトイレのしつけ)であった。(図2)

犬及びねこにより生活が変わったと感じたのは、犬で92.1%、猫で89.7%(図3)、その内訳は、犬で家族の会話が增えた87.7%、世話をする人が体を動かすことが増えた72.6%、子供に責任感がついた55.5%、ねこでは家族の会話が增えた88.5%、安らぎを感じる76.1%、子供が明るくなった47.3%、その他の内訳は子供に思いやりの心がついた、優しくなった、自分より弱いものへのいたわりの心が芽生えた、楽しみが増えた等であった。近隣に迷惑がられているが猫で2名あり、野外で排泄してくるためと回答していた。(図4)

犬及びねこことの生活の満足度を点数で表すと、100点満点が犬31.7%、ねこ37.3%であった。1回目の調査より2回目の調査の方が、犬で10%、ねこで20%100点と回答した人が増えた。満点も含めて80点以上が犬81.1%、ねこ88.5%であった。(図5)

減点した理由は、どちらもまだ1歳に満たないためじゃれるいたずらなどが1位、2位が犬でおくびょう、猫で爪とぎであった。(図7.8)

譲渡前学科講習会については、ためになったが犬93.5%、猫92.3%、内容については、犬で納得はしたが実行はむずかしいが75.9%、もっと詳しく聞きたかったが12.0%、猫でもっと詳しく聞きたかったが23.1%であった。

子犬の飼い方教室(パピーコース)実技講習会に参加して、大変ためになった75.0%、少しためになった15.7%、講師については、わかりやすいが85.2%、また参加したいが69.4%であった。(図9)教室の感想は、今までこういった機会がなかった61.1%、実際のしつけ方がわかった47.2%、納得はしたが実行は難しい35.2%、犬の

同窓会みたいで楽しかった27.8%であった。(図10)

4 まとめ

当施設に犬の譲渡申し込みをする人の30%は犬を飼った経験が無く、飼い方について不安を持っている人が多かった。今回の譲渡後の意識調査で、犬及びねこの生活の満足度が高かったこと、飼い方教室の内容に対する反響が高かったことが分かった。さらに大きくなった犬やねこの写真や感謝の手紙を同封してくれる家族が多かったこと等から、譲渡希望者の期待に応えることができたと思われた。犬145頭、猫34匹計179頭の処分動物の救済もでき、本事業は順調に滑り出している。

犬について50%以上が我々の推奨する室内飼育をしており、家族の一員として迎え入れていることがわかった。ねこについては、外にも自由に出られるが42.3%あり意識改革にはまだまだ時間がかかりそうであった。講習会や飼い方教室は、家族全員の参加がほとんどで、特に子供たちに学んでもらいたいという親の意向と、子供達も自ら関わりたいという意欲が感じられた。犬については、その世話を子供がしているとの回答が多く、子供の変化(責任感、明るさ、情緒、優しさ等)を感じている家族が多いのが特徴であった。犬の飼い方教室への反響も大きく、過去に犬を飼ったことがある人でも「今まで知らなかった」「ためになった」との意見が多く、機会があればまた受講したいが70%と高かった。一方当施設までは遠い、犬が車に酔うので連れて行かれない、しっかりしたしつけはできないけれど我が家にとっては充分であるといった意見もあった。犬との縁組については、おくびょうな犬が元気な子供のいる家庭に譲渡されるなど犬の性格が家族構成に合っていない場合もみられ、縁組方法は今後の最も大きな課題であり、場合によっては譲渡後の指導を個別に行う必要性を感じた。

今回の調査全体を通じて、この事業が精神的にも身体的にも良い影響が出たとの良好な結果が得られた。